



【海外経済指標他】～新規失業保険申請件数：やや不気味～

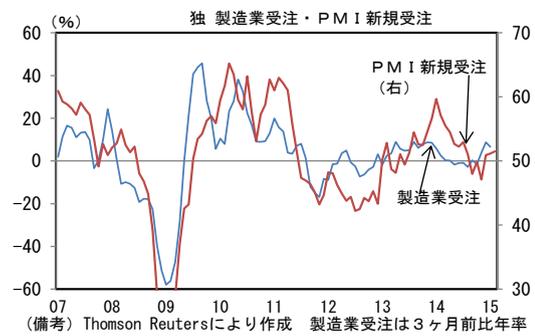
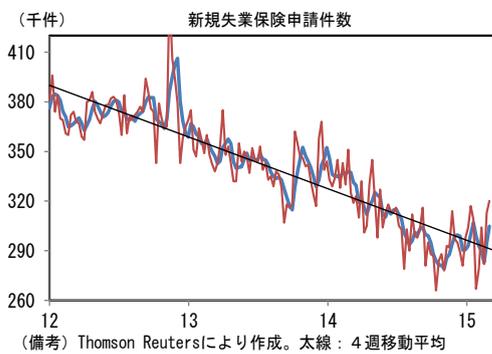
- ・ECB理事会では、金融政策の現状維持が決定されると共にQEプログラムの詳細が発表された。QEプログラムの詳細説明は技術的・法的な色彩が強く、さほど重要なメッセージは発せられなかったが「買入れ対象資産の利回りは預金ファシリティ金利（現在▲0.2%）を下限する」との詳細が明らかになると欧州債市場では長期ゾーンの金利低下に拍車がかかった。なお、買入れ対象資産のデュレーションについては、日銀（QQE2、7～10年）やFED（ツイストオペ）とは異なり、「デュレーションにターゲットは設けない（市場残高に応じてマーケットウェイトに中立とする）」とした。
- ・同時に発表されたECBスタッフの経済見通しは下表の通り。2015年のGDP成長率が上方修正される一方、インフレ率が下方修正。2016年はGDP成長率とインフレ率見通しが共に上方修正、2017年はGDP成長率が+2.1%、インフレ率が+1.8%とされた。2017年にはインフレ率がECBの物価目標である「2%かそれをやや下回る水準」に届くとの見立てだ。市場の最大の関心事はQEプログラムがオープンエンドなのか、すなわち2016年9月以降も続くのか否かだが、今後ECBスタッフのインフレ率見通しが下方修正された際には緩和期待（QE延長期待）が高まりそうだ。

【ECBスタッフ経済見通し】

	2015	2016	2017
GDP	+1.5% (+1.0%)	+1.9% (+1.5%)	+2.1%
インフレ率	+0.0% (+0.7%)	+1.5% (+1.3%)	+1.8%

括弧内の数値は2014年12月時点の予測値

- ・新規失業保険申請件数は32.0万件と前週（31.3万件）から増加。4週移動平均は1.03万件増加して30.48万件となり、6週間ぶりに30万件を突破。寒波の影響や休日に絡んだ季節調整の歪みも指摘されるが、昨年11月から減少が一服しており、労働市場の改善ペースがやや鈍化している可能性を示唆。30万件割れを維持できないようであれば、労働市場に対する超楽観的な見方をやや修正する必要がでてくるかもしれない。
- ・1月独製造業受注は前月比▲3.9%と市場予想（▲1.0%）を下回ったが、前月分は上方修正された（+4.2%→+4.4%）。振れが大きく基調が把握し辛いですが、3ヶ月前比年率では+6.7%とまずまずのモメンタムを維持しているうえ、PMI新規受注（51.1→51.5）は製造業受注の再加速を示唆している。1月の下落は一時的な現象と判断される。



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

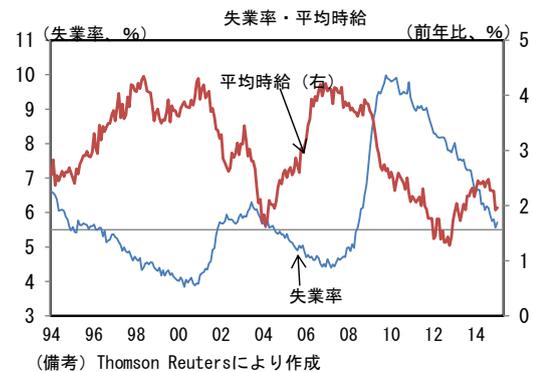
- ・前日の米国株は欧州株ラリーに追随。
- ・前日のG10通貨はUSDの強さが目立った一方、EUR、CHFの弱さが目立った。EUR/USDはドラギ総裁会見前後に下落加速、1.10前半まで水準を切り下げた。EURに対するUSD買いの流れがその他通貨にも波及、USD/JPYは120を回復。6日日本時間でUSD/JPYは雇用統計を控え、120を挟み一進一退。
- ・米10年金利は▲0.2bpの2.115%。欧州債ラリーに追随する場面もみられたが、雇用統計を控えるなかで方向感はず、行って来い。欧州債市場は多くの国がブルフラット。独30年は1%割れに回帰。

【国内株式市場・経済指標他】～機械受注に注目～

- ・日本株は米株高を受けて高寄り後、日経平均19000手前まで上伸。
- ・来週は1月コア機械受注に注目。コンセンサスは前月比▲4.0%の減少を見込んでいるが、それでも10-12月期平均を年率+6.8%上回る。予想に届けば、設備投資加速期待が維持されよう。

【注目点】～平均時給低くても～

- ・本日の注目点はもちろん雇用統計。市場予想どおりNFPが24万人増加して、失業率が5.6%に低下すれば、FEDは利上げに向けた地均しを本格化させ、3月FOMCで「辛抱強く」という文言を外すだろう。もちろん平均時給(市場予想：前月比+0.2%)も重要だが、失業率がFEDの推計するNAIRU(インフレ率を加速させない失業率閾値で5.2~5.5%と推計されている)を上回っている限り、FEDは平均時給の鈍さをさほど重要視しないだろう。実際、過去の例を参考にしても、失業率が5%台後半で推移している間の賃金上昇率は鈍いことが分かる。つまり2月雇用統計がよほどのネガティブサプライズにならない限りFEDのタカ派傾斜は止まらないということだ。



<主要株価指数>		
	終値	前日比
日経平均※	18915.29	163.45
N Y ダウ	18,135.72	38.82
D A X (独)	11,504.01	113.63
FTSE100 (英)	6,961.14	41.90
CAC40 (仏)	4,963.51	46.16
<外国為替>※		
USD/JPY	119.97	-0.17
EUR/USD	1.1028	-0.00
<長期金利>※		
日本	0.394 %	-0.010 %
米国	2.115 %	-0.002 %
英国	1.859 %	-0.017 %
ドイツ	0.348 %	-0.035 %
フランス	0.647 %	-0.030 %
イタリア	1.305 %	-0.087 %
スペイン	1.281 %	-0.079 %
<商品>		
N Y 原油	50.76 ^{F_{ブル}}	-0.77 ^{F_{ブル}}
N Y 金	1196.20 ^{F_{ブル}}	-4.70 ^{F_{ブル}}

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。
(出所) Bloomberg

日経平均株価 13:18 現在

N Y ダウ平均株価

USD/JPY

N Y 原油

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。